

大学生等による地域課題の解決支援(萩地域)

《萩市小川地区その①》

- 1 実施主体
平山台果樹生産組合
- 2 連携大学
広島修道大学三浦、富川ゼミ
- 3 第1回支援活動：平成25年7月6日（土）
- 4 参加者
地元組合員等 16人、大学生 9人
- 5 支援活動の概要

「平山台果樹生産組合」では、都市住民などとの交流による地域の活性化を図るため、若者、よそ者の視点を活かした「地元あるきツアー」のプランを作成

(1) 果樹園地内の現地調査



ぶどう園

(2) 地元の皆さんとの情報交換会

- 三浦広島修道大学人間環境学部長の挨拶

持続的に地域が継続するためにどうあるべきか、人間の暮らし方の多様性について考えていきたい。



○ 地元組合員の意見

- ・ 果樹園をガーデンに見立てた「オープンガーデン」をやったが人は来ない。
- ・ 冬の景色、果樹の木、周辺の景色はきれいである。

○ 情報・意見交換



高齢化、後継者がいないよね。

入り口や品目、品種の案内看板が必要じゃね。

平山台祭を3年続けてやった。人は来るが・・・PRしているが効果が出ていない。

(3) 三浦広島修道大学人間環境学部長による講評

- ① マップをわかりやすく情報整理を行い「ここから平山台果樹団地に入っていく！」という期待を持たせる仕掛けが必要
- ② 果樹の品種の特徴を情報発信することが必要
- ③ 津和野、萩とつながるストーリーが必要
- ④ 作業を部分的に体験する、園地の樹木の高さや果実の実る様を実体感できるようなツアーの検討



- ⑤ 広島都市住民をここに呼び込むには何か“特別なもの”が必要、距離のハンディがあるので、来てゆっくりしていただくような宿泊の検討
- ⑥ 袋かけなど果樹が育っていくプロセスをフェイスブックで写真を中心に発信